

日印国交関係樹立70周年セミナー
本田外務大臣政務官御挨拶

ナ マ ス カ ー ル

Namaskar. こんにちは。

本日は、日印国交樹立70周年を祝賀するセミナーの開催、誠におめでとうございます。日印両国の有識者の参加を得て、日印の長い友好の歴史を振り返りつつ、新たな未来に向けた有意義な議論が行われることを期待します。

本日のセミナーのテーマは、「日本とインド：協力の70年と未来」です。日本とインドは、1952年に外交関係を樹立して以降、手を携えながら共に歩みを進めてきました。戦後間もない日本の高度経済成長を支えたのは、インドから輸入された鉄鉱石でした。また、インドから贈られた象は、日本の子供達を元気づけてくれました。これに対し、当時まだ戦後復興の途上にあった日本が、1958年に初めて政府開発援助（ODA）を供与したのは他でもないインドでした。その後、日本のODAと技術により造られ、デリー市民の生活にとって欠かせないものとなったデリー・メトロは、日印の関係を象徴するものです。このように、日印の70年の友好の歴史は、心と心の交流を基礎とし、共に歩んできた発展の歴史です。

そして、今や、日本とインドは、民主主義、法の支配といった基本的価値と戦略的利益を共有する「特別戦略的グローバル・パートナー」として、両国首脳の年次往来等を通じて、積極的に協力を進めています。また、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」を実現するためには、かねてよりルールに基づく秩序の重要性を訴えてきている日印両国がしっかり連携していくことが大切です。先日も、日米豪印外相会合の機会にメルボルンで、林外務大臣とジャイシャンカル外相が会談を行い、両

国の緊密な連携や具体的な協力を更に深めていくことで一致しました。二国間はもちろん、日米豪印等の多国間での協力も更に進めていきたいと思います。

先日、私は、日本・南西アジア交流年の幕開けを記念して、東京で「書き初め会」を開催しました。その際、インドからの代表者は、「世界は一つの家族」という意味のサンスクリット語を記しておられました。インドでとても大切にされているというこの言葉は、世界的な課題に手を携えて挑む日印両国の関係を良く言い表しているようにも思えます。

両国が国交樹立70周年を迎える本年は、官民ハイレベルの往来等により、政治・経済・安全保障・経済協力のみならず、人的交流・文化交流を含む、幅広い分野での協力を更に強化する絶好の機会です。新型コロナウイルス感染拡大という困難を共に乗り越え、この記念すべき年を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思います。

最後になりますが、日印両国の友好関係の一層の進展を心より祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ダンニャワード

Dhanyawad. ありがとうございました。

(了)